

透析液の清浄化の必要性とその指標

第 51 回 日本透析医学会学術集会

佐々木敏作、丸山禎之、戸田和美、林 彩子、我那覇志真子、松本芙美子、宮田
奈々恵、河井里枝、岡本真由美、和田 茂(佐々木内科クリニック 腎センター)

【目的】透析液清浄化による維持透析患者の生体反応と、それに影響を与える透析液の清浄化指標についても検討した。

【対象・方法】当院へ転入した維持透析患者 32 名について、その CRP、S-BMG、Hb、エリスロポエチン使用量、PWV の変化について検討した。

【結果】転入後 6 ヶ月で CRP は 0.259 から 0.154 へ、S-BMG は 29.0mg/L から 27.8mg/L へ有意に低下した。しかし、Hb およびエリスロポエチン使用量、PWV については変化が認められなかった。S-BMG の変化は RO 水の伝導度やエンドトキシン濃度とは相関がなく、微粒子計で測定される透析液や RO 水の微粒子数と有意な相関が認められた。

【結論】透析液のさらなる清浄化により、維持透析患者の生体反応が改善することが示唆された。また、透析液中エンドトキシン濃度が常に測定感度以下の状況では、それのみを清浄化の指標とすることは問題であり、多角的な面からの管理・評価が必要であると思われた。